

笛吹市探訪

『ふるさと祭りの祭り』八 「美和神社の湯立神事」



湯立の様子



お天狗さんの舞

ふるさとの祭りシリーズ第8回は、毎年2月8日に行われる御坂町二之宮地区にある美和神社の湯立神事（1）を紹介します。

歴史ある美和神社の湯立神事
美和神社は、九世紀光孝天皇の時代に甲斐国第二宮と定められ、中世では、歴代の武田氏惣領が武運長久、子孫繁栄を祈願して尊びあがめた神社です。

この湯立には、天狗のお面を着けた猿田彦（2）の舞がとまな、地元では「お天狗さんの舞」「天狗の舞」と呼ばれ、親しまれています。また、県内で湯立神事

に舞が披露されるのはここだけといわれています。

美和神社の湯立神事の歴史は古く、記録によると江戸時代後期にはすでに行われていました。

お天狗さんの舞と湯立
午後1時過ぎに厄歳、還暦を迎えた氏子が集まり本殿と祭場で神事を行い、2時頃からお天狗さんの舞が始まります。舞は「手締め

の舞」「鉾の舞」「太刀の舞」の3種から成ります。「手締めの舞」は手締めと呼ばれる力紙（3）を中指に結び素手で舞う舞です。まず祭壇（北）に向かい顔の前に

かざした両手で印を結びます。ついで右手、左手、右手の順に斜めに片手を振り上げ、右手で九字の印を切ります。次に右足で九字を描きます。舞手は足を踏みながら右回りに一周旋回して位置を変え、

東、南、西の順に向いて同じ舞の所作を繰り返します。鉾の舞、太刀の舞も同様の所作で舞いますが、足で九字を描く動作は手締めの舞のみ行います。

太刀の舞が終了すると、舞手は祭壇に向かい鞘に太刀を納め、拍手を2回打ち、退場します。この後すぐに湯立に移ります。

はじめに、宮司は衣の袖をまくり、湯がきの竹竿をゆくり回して釜の湯をかき混ぜます。次に竹竿を激しく釜の底にこするよう右に回転させます。この湯立の所作を繰り返した後、柄杓で釜の湯

を祭壇の器に汲んで神に献上します。次に笹竹2本を湯に浸し、両手を使い左右に振り湯花を四方に散らして神事は終了になります。

美和神社太々神楽

美和神社には、県の無形民俗文化財に指定されている太々神楽があります。太々神楽は氏子の美和神社神楽保存会の会員により毎年4月行われる春の例大祭で披露されます。また、この湯立神事で舞われるお天狗さんの舞も保存会の方々が毎年舞手になっていきます。湯立と舞を一度にご覧になれる美和神社の湯立神事に足を運んでみてはいかがでしょうか。

1 湯立神事：釜で湯を煮えたらぎらせ、その湯を神々に献上するとともに、氏子に飛沫をかけて、無病息災や五穀豊穰などを願う行事。美和神社では厄歳の人の厄払いと還暦の人の祈祷も兼ねて行う。

2 猿田彦：日本神話の神。背が高く長い鼻を持つ容姿の描写から、天狗の原形といわれる。

3 力紙：力の象徴あるいは呪力をもつものとして使用される白紙。